

フロア案内



小村寿太郎ヒストリーコレクション

日本外交の礎を築いた明治の外交官小村寿太郎。飫肥城下の武士の家に生まれ、外交の表舞台で活躍する類い稀な才能の土台は、ここ飫肥で育まれました。

小村の人生を、飫肥とのつながりを中心にイラストブックで紹介します。

イラストブック

- CAPTURE1 外交の礎を築いた
- CAPTURE2 小村寿太郎ってどんな人?
- CAPTURE3 幼いころの寿太郎
- CAPTURE4 青春時代の寿太郎
- CAPTURE5 寿太郎のお仕事
- CAPTURE6 最大のミッション
- CAPTURE7 最晩年の小村寿太郎
- CAPTURE8 寿太郎を支えた人々
- CAPTURE9 飫肥に残る寿太郎の軌跡
- CAPTURE10 小村寿太郎からのメッセージ



小村寿太郎記念館

〒889-2535 宮崎県日南市飫肥 4-2-20-1
TEL (0987) 25-1905

小村寿太郎記念館



小村寿太郎の生誕地

飫肥



①小村寿太郎生誕地碑

昭和8年(1933)に完成したもので、高さ6.7m、表面には東郷平八郎、裏面には杉浦重剛の書が真筆で刻まれています。

②小村寿太郎生家

生誕地碑の場所にあった建物で、大正10年(1921)に現在地に移築されました。2度の移築があり増改築されていますが、主要部は生家の部材であると考えられています。

③振徳堂

天保2年(1831)、飫肥藩第13代藩主伊東祐相が学問所を大きく増改築したもので、振徳堂の名は、「孟子篇」の「又從振徳之」に由来しています。

④小村寿太郎墓

明治44年(1911)に56歳で死去した際に国葬が行われ、東京の青山霊園墓地に葬られましたが、長男の欣一が遺髪を持ち帰り飫肥にも墓が建立されました。

⑤小倉処平墓

振徳堂で教鞭をとった小倉処平は、寿太郎の才能を高く評価し、長崎遊學や大学南校進学への道しるべを示しました。西南戦争では薩摩軍として飫肥隊を率い、延岡市北川町で最期を遂げました。

⑥小村寿太郎銅像

桜の名所である竹香園の高台にあり、明治から昭和にかけて活躍した彫刻家の朝倉文夫が昭和27年(1952)に制作しました。花崗岩の台座に約2mの小村像が東を向いて立っています。

寿太郎の志

1893年(明治26)38歳で中国への赴任が決まった小村は、

「日本にはまだ外交はないのだ。
眞の外交はこれから起こつてくるのだ。」

と宣言して外交の表舞台に躍り出た。

それから8年後の1901年(明治34)、外務大臣に就任する。かつて多額の負債に追されていた小村が任命されたことに、誰もが驚く。

早速、小村を支えてきた飫肥出身者たちが、東京赤坂の旧飫肥藩主屋敷で祝賀会を催してくれた。かつて小村に振徳堂で剣術を教えた和田勇(沖縄県警務長)が祝辞を述べ、小村が逆境から大出世をとげたと大臣就任を讃えた。



すると小村は、

「今は私の地位、事業、人格を賞賛する時ではありません。
それをするにはまだ早すぎます。私の苦労はこれからで、眞の仕事はこれからです。これまでのことは将来に向けての準備に留まつていました。」

と答えた。つまり「大臣就任が私の目標ではない。これから私が目標とする國づくりのために外交を行います。これからの私を見ていて下さい。」と言う意味を込めての宣言だった。

この後、日英同盟締結、日露講和条約締結を成し遂げ、さらに幕末に結んだ不平等条約の解消を実現して、宣言通り日本の地位を高めることに貢献した。

小村外交は日本外交の礎となった。

小村寿太郎の一生

(歳は満年齢で、その年の誕生日を迎えた年齢とする)

